

浅海底の戦争遺跡

どのように可視化し、どのように伝えるか？

日時：2018年6月12日（火）13:00～16:20（3・4限）

場所：九州大学 共進化社会イノベーション施設 2Fホール

プログラム

「沖縄戦と戦争遺跡 — エモンズを理解する為に」

片桐千亜紀（沖縄県立埋蔵文化財センター／九州大学大学院 比較社会文化研究院）

「最先端技術を用いたUSSエモンズの地図化とその意義」

菅 浩伸（九州大学 浅海底フロンティア研究センター／九州大学大学院 地球社会統合科学府）

「水中文化遺産と戦争の記憶 — ハワイ・USSアリゾナの事例」

中西裕見子（大阪府教育庁）

「太平洋戦争の歴史と記憶をめぐる教育のあり方」

マシュー・オーガスティン（九州大学大学院 地球社会統合科学府）

沖縄・古宇利島沖の水深40mに沈む米国の戦艦エモンズは、第二次大戦末期の沖縄戦にて日本軍特攻機の攻撃によって航行不能となり、僚艦によって沈められた。我々はこの海戦跡について、多視点ステレオ写真測量にマルチビーム音響測深から得られた位置情報を与える革新的方法を用いて、きわめて詳細な三次元モデルを作成した。本講義ではこの研究と近現代の歴史研究を基にして、水中戦争遺跡の保存と今後の平和教育への活用について論じる。

Photography © Hironobu Kan

学生以外の聴講も歓迎します。なお、当日はテレビ局の取材が入る場合があります。

本講義は下記科研費の成果の一部です。

平成28～32年度 科研費 基盤研究（S）16H06309 浅海底地形学を基にした沿岸域の先進的学際研究 — 三次元海底地形で開くパラダイム — （研究代表者：菅 浩伸）

本講義の内容は以下の論文を基に構成しています。

Kan, H., Katagiri, C., Nakanishi, Y., Yoshizaki, S., Nagao, M., Ono, R. (2018) Assessment and significance of a World War II battle site: recording the *USS Emmons* using a high-resolution DEM combining multibeam bathymetry and SfM photogrammetry. *International Journal of Nautical Archaeology*, in press.

